

「新たな経営ビジョン」

4月12日、清水で行われたオリジンの期首の全体会議で、新たに「ITで総合生活移動産業創造を支援する」という経営ビジョンの基に、「30周年第三次創業」を指すという方針を発表させて頂いた。オリジンといえば一つ覚えの様に「総合生活移動産業」と言っているという印象があるのに、何を今更そんなビジョンを「新たに」掲げるのかという疑問をお持ちになるかも知れない。確かに「六本木シンポジウム」や「オリジンタクシーゼミナール」などで、現加賀市長である寺前さんが提唱した「総合生活移動産業」というコンセプトを掲げ続けて来た。にもかかわらず、実はオリジンという会社としては経営ビジョンの中に「総合生活移動産業」というコンセプトを掲げるのは初めてである。第二次創業で確立した「お客様の深いニーズと結びつき、お客様の抱える問題を掘り起こし解決する自己革

新的技術者集団を作る」という理念の基に「ITで総合生活移動産業創造を支援する」という経営ビジョンを掲げるという事は、オリジンという会社がソフトウェアをその基盤としつつ、タクシー産業のインキュベーション(起業支援)をその営業的、システム技術的課題とするということであり、このビジョンといまの現実を切り結んでいく戦略と戦術を、このビジョンの基に統合していくという事である。

では今までと何が違うのか？との質問が飛んできそうだが、今までは「総合生活移動産業」は清野個人の個人的な事情による個人



清野吉光氏のコラム 第41回

団塊 耕 志 録

清野 吉光(きよの よしみつ) 略歴

1950年 長野県四賀村生まれ、松本深志高校卒業。1968年上智大学外国学部ロシア語科入学、1971年 中退。その後印刷関係など様々な職業に従事。1976年清水市の日の丸交通入社。1980年静岡市内の事務機器センターに入社。1982年システムオリジンを仲間と創業、専務取締役。1992年代表取締役社長就任。2000年株式会社タクシーサイト創立、現取締役会長。2007年タクシーアシスト代表取締役社長に新任。現在に至る。



ITで総合生活移動産業創造を支援する

的な夢を大きく出るのではなかった。それは必ずしも社員の人の共感を得る事は出来ていなく、また幹部のレベルでも意志の統一は十分にはできていなかった。また、もつと言えればタクシー業界全体に必ずしも支持されているとはいえない。何故オリジンの正規の経営ビジョンとして「ITで総合生活移動産業創造を支援する」と掲げるのか？それは、タクシー業界を取り巻く時代認識とその中でオリジンのミッション(使命と役割)の認識から来る。日本の高度成長経済が終焉して以降、旧来のタクシーの需要は減り続けている。昼間のビジネスとそれに付随する需要(夜の飲食による帰宅需要)は景気の低迷もさることながら、労働力人口そのものの絶対数が減る事により、さらに今後も減り続けるだろう。従来のタクシーのビジネスモデル(商品)は、この従来のニーズに合わせた最適な仕組みであった。このニーズを見ている限りは、タクシ

ー業界の将来は暗く、特措法の言う「適正化」(＝減車)は避けられないであろう。しかし、成長する「移動」のニーズが無いのかと言え、それははっきり「あります！」と断言できるだろう。但し従来のサービスメニューや価格体系やおもてなしレベルや利用者との繋がり方では、その需要を取り込め切れない。この新しい勃興する需要を取り込めるタクシー産業の新しい姿をコンセプトとして「総合生活移動産業」としてビジョン化し、そのビジョン実現の為にITを駆使してお手伝いをする(システムを作り上げる)事がタクシー業界とオリジンの発展の道であると改めて定義づけ、オリジンの30周年第三次創業の出発点とした。またそれを社員の人と業界に、共感して貰える条件が揃いつつあると認識している。オリジンの持続と発展の為に、会社全体でこのビジョンの基に、あらゆる活動を統合、連携させねばならないと思っている。

タクシー業界の優位性

タクシー業界、そしてオリジンにとっても、従来のビジネスモデルの否定と新しいビジネスモデルの選択という二項対立ではなく、むしろ従来のビジネスモデルがあるが故に、優位に新しいビジネスモデルへの転換が可能である。「総合生活移動産業」はその名の通り、他の業種、業態のビジネスモデルとの総合・統合が不可欠となる。移動と介護、福祉、教育、保育、観光などの組み合わせ、合わせ技の中で新しいサービスメニューが生まれてくる。



プロドライバーと行く、貴重な旅。大きな感動。

しずおか旅タクシー

玉露タクシー
静岡産玉露茶を味わおう、食べる。

五十三次タクシー
あま、心も、野も、空も、味わおう、食べる。

わさびタクシー
わさびの香りを味わおう、食べる。

SLタクシー
SLの魅力を味わおう、食べる。

茶摘みタクシー
茶摘みの楽しさを味わおう、食べる。

エアポート定額タクシー
富士山静岡空港 往復 8,500円

そして他の業界との競合上、タクシー業界はもともと有利なポジションを与えられている。タクシー業界から他の業種に参入、統合するのは容易だが、他の業種からタクシー業界に参入するのは事実上不可能である。移動の軸となる車両、通信設備、マンパワーを備え、ましてや移送のサービス自体を規制で守られている事の優位性を、我々は強く認識すべきだと思う。

千代田タクシー様の挑戦

新しい移動のニーズは広く存在する。しかし、それはまだボリュームも少なく、また企画力やお客様の立場にたつたサービスメニュー

の作り込みが必要とされ、経営者と乗務員の創意と工夫が必要とされる。そうした訓練は従来のタクシー業界ではあまり必要とされなかつたが、全国のタクシー会社様の中ですでに様々な試みが行われており、また実際の成果も上がっている。こうした事例を検証し、またこうした取り組みにオリジンがITを通じてどうお役にたてるかを真剣に考えていかねばならない。たまたま身近に弊社のユーザーである千代田タクシー様という38台の会社様が、非常にユニークな挑戦を続けている。実はこの千代田タクシーの加藤社長に先日東京交通新聞の浅野記者がインタビューを行い、東京交通新聞の6月11日の全タク連総会向け特集号、及び6月21日の全自無連総会向け特集号に2号連続でユーザー事例として掲載され、その長年に渡る介護、観光の分野での挑戦が紹介される事になっている。しかし掲載は1

か月も先の話なので、是非ここでその一端を紹介させて頂きたい。千代田タクシーさんのホームページを見るとトップに「みんなの移動を真面目に考える会社です」と表示があり、様々なユニークなサービスが紹介されている。とりわけ地元静岡の移動ニーズを開拓した「しずおか旅タクシー」が面白い。玉露タクシー、おでんタクシー、南アルプス登山送迎、南アルプス観光、鮎釣りタクシー、バーベキュータクシー、東海道五十三次タクシーなど、移動の前後にプラスアルファの物語とサービスを付け加え、次々と今までなかったタクシー需要を開拓してきた。そしてそれを行政やNPOなどと連動、連携して、町おこし、地域起こしとして実現している。加藤社長のこうした挑戦は、1976年の車椅子専用架台のタクシーの全国初めての設置から続いており、一朝一夕のものではないが、まさに志と総合力の結果故に可能であつたと思う。

(2012年4月23日記)

お客様の「ありがとう」が、毎日の活力です!

タクチャージで

売上
やりがい
コミュニケーション
サービス
イメージ

UP!!

タクシー車内 充電OK! TAXCHARGE

● 対応機種

1. docomo-FOMA/SoftBank-3G
2. auCDMA/au-WIN
3. ipad, iPhone-3G/4G, iPod (第五世代、classic)、iPodtouch、nano
4. その他microUSBを使用するゲーム機、デジタルカメラ、携帯型小型PC等

(販売元)
株式会社システムオリジン
03-3834-8352

19